資　料

ブルガリアにおける剣道の普及と課題

The spread of and problems related to Kendo in Bulgaria

中澤　雄飛*，太田　昌孝**

Yuhi NAKAZAWA* and Masataka OTA**

Abstract

The purpose of this study is to consider 1) the start of Kendo in Bulgaria; 2) the spread of Kendo and its relationship with other organizations; and 3) the problems related to the spread of Kendo in Bulgaria. In Bulgaria, Kendo was started at the beginning of the 1990's with a demonstration. After that, the Bulgarian Kendo Federation was organized in 1993. This federation then became affiliated with the European Kendo Federation in 2001. Consequently, the Bulgarian team was able to participate in the 17th European Kendo championships for the first time.

As for the problems, when Kendo was started, the lack of availability of Kendo equipment was the main problem. But now, the main problem has become the lack of Kendo coaches. After Bulgaria joined the European Union in 2007, many talented people left to work or study in foreign countries. This trend would continue for the time being. Consequently, in the future, the occurrence of Bulgarian Kendo players receiving coaching from foreign Kendo players will increase. Then, Kendo as a part of Japanese culture will acculturate to the different culture.

Key words; Bulgaria, Kendo, spread, problems

Ⅰ．はじめに

国士舘大学体育学部武道学科では、毎年海外での武道事情を体験しながら学習する「海外武道実習」が実施されている。大学３年次の選択科目ではあるが、剣道専攻の学生はフランスかハンガリーでの実習を選択することが可能である。筆者は2005年、第３回目のハンガリーでの実習に参加し、現地の剣道修練者の日本人にも劣らない、あるいは日本人以上の剣道に対する真摯な姿勢に驚かされると同時に、青年海外協力隊員をはじめとする現地日本人指導者のその国の文化を尊重しつつ、日本の伝統文化である剣道を指導している姿に感銘を受けた。それ以後、筆者は海外での剣道の指導と普及の実情に興味を抱くようになり、卒業後は青年海外協力隊に志願した。そして、幸いにも

* 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科（Graduate School of Sport Systems, Kokushikan University）
** 国士舘大学体育学部（Faculty of Physical Education, Kokushikan University）

2007年から2009年までの２年間、ブルガリアでの剣道の普及活動に携わるという経験を踏むことができた。

ところで、剣道の普及のかたちは次の３つに大別できる[1)]。

① 移民と共にアメリカ合衆国西部、ハワイ、ブラジル、カナダ西部に定着したタイプ。
② 日本統治下の軍や学校で蒔かれた剣道の種子が、戦後独立してからも、それぞれの社会風土の中で独自の発達をとげた韓国や中国に見られるタイプ。
③ ヨーロッパ、東南アジア、オセアニアなど第２次世界大戦後に剣道が芽生え、育ったタイプ。

①②のタイプは日本との長年の関わりの中で芽生えたのに対して、③では、自らの剣道への興味関心から、全日本剣道連盟の短期巡回講習会等に参加したり、長期の日本人指導員や在留邦人の剣道経験者が指導するうちに次第に広がっていったものである[2)]。

国際剣道連盟（以下FIK）は、1970年に15カ国およびハワイ・沖縄の２地域を含めた17団体で設立され、現在では50の国と地域が加盟している。その地域別の内訳はアジアゾーン11連盟、アメリカゾーン10連盟、ヨーロッパゾーン29連盟となっている。このほかに未加盟国・地域ではあるが、着実に活動を行っている国が約50カ国存在し[3)]、近い将来FIKに加盟することも予想される。

以上のことから、日本との関わりが最も少ない③タイプのヨーロッパゾーンが、FIK加盟国の過半数を占めている今日、ヨーロッパの剣道が世界の規模での影響を与えていくことは容易に想像できることである。この点に関して、ハンガリー剣道連盟技術局長として長年現地で指導を行っている阿部は次のように述べている[4)]。

日本人・日系人がほとんどいない地域であるにも関わらず発展を遂げた点でヨーロッパはとても特殊なケースだといえます。近年、アフリカや中近東ばかりでなく西アジア諸国でも剣道が普及しつつありますが、こうした国々にとってヨーロッパの動向は、異文化としての剣道を発展させるための優れた参考となり得ます。

ヨーロッパの一国であるブルガリアに剣道が伝わり、始まり、そして広がっていく過程を考察することは、今後の剣道の海外普及を考える上で一定の意味を持つものであろう。

Ⅱ．研究目的

本研究では、文献およびブルガリア剣道連盟（以下BKF）公式ホームページ記載資料「ブルガリアにおける剣道の歴史」を中心に、1）ブルガリアにおける剣道の始まり、2）剣道の広がりとそれに伴う他団体との関わり、3）ブルガリアにおける剣道普及の課題について考察することを目的とする。

Ⅲ．本　論

１．ブルガリアにおける剣道の始まり

ブルガリアに剣道が移入される最大の契機は、やはり1989年の政治体制の転換であろう。1989年に共産党の独裁政権が崩壊したブルガリアは、1991年7月、東欧では初の民主的な新憲法を採択し、民主制への移行を果たした[5)]。これ以後、海外からの資本や文化が急速に流入した。日本文化も例外ではなく、武道を含めた様々な情報が多くの人々に知られるようになった。

体制転換以前は、空手以外の武道はすべて禁止されていた[6)]が、1990年代初頭、在ブルガリア日本大使館（以下日本大使館）の協力により行われたデモンストレーションによって、剣道は公式に紹介されることとなる。BKFホームページ「ブ

ルガリアにおける剣道の歴史」は、次の一文から始まっている[7]。

ブルガリアにおける剣道の歴史は、1990年代初頭に始まった。４名の日本人師範が私たちのところを訪れた。そして、日本大使館の協力により、デモンストレーションと講習会が行われた。そのイベントには、たくさんのブルガリア人が参加した。

これがブルガリアにおける剣道の始まりである。このイベントが開催された正確な年月日も当時訪れた日本人師範の名前も記されてはいない。しかし、このイベントに参加したことが契機となって剣道を始めた現BKF会長は、1991年に剣道を始めたこと[8]を述べていることから、それは民主化へ移行して間もない時期であったと考えられる。

その後、日本大使館の駐在員に剣道の指導を仰いだりしながら、剣道が続けられるようになっていく。しかし、政治的・経済的に不安定な状況が続くブルガリアでそれ程ポピュラーではない剣道を行うことは決して簡単なことではなかった。特に、剣道具の調達と稽古のできる場所を確保することは極めて困難なことであった。こうした状況のなかで、1993年に剣道の公式団体としてブルガリア剣道連盟が設立され、徐々に組織的な活動を展開していくことになる。

２．剣道の広がりと周辺組織との関わり

2-1．青年海外協力隊による支援活動

1993年に組織としての体裁を整えたBKFは、当時ブルガリアで開始されたばかりの国際協力機構（以下JICA）のボランティア事業に支援を要請、そして翌年には、初代の青年海外協力隊剣道隊員を迎え入れる。

青年海外協力隊とは、JICAボランティア事業の一種で、20～39歳の青年を開発途上国に派遣し、途上国の人々とともに生活し、異なる文化・習慣に溶け込みながら、草の根レベルで途上国の抱える課題の解決に貢献する事業である[9]。東欧諸国における剣道隊員の派遣は1992年から開始され、ハンガリー７名、ポーランド６名、ブルガリア６名（うち短期ボランティア１名を含む）、ルーマニア４名の計23名[10]が２年間の任期（原則）で活動を行ってきた。なお、東欧４カ国へのJICAボランティア事業は、各国のEU加盟を契機に2009年３月を以て終了している。

ブルガリアでは、この剣道隊員が配属されたことにより、剣道の継続的・専門的な技術指導が受けられるようになったのはもちろんのこと、組織運営のサポートも得られるようになった。これにより、級審査の実施や大会の開催、地方クラブの新規設立等、BKFは幅広い活動を行うこととなった。特に、隊員の地方巡回指導によるクラブの新規設立・育成に果たした役割は大きく、現在では首都ソフィアを含め７つの地域で剣道が行われている。

2-2．国内団体との関わり

ブルガリアにおける剣道の普及において、他の団体との関わりも欠かせない要因の一つである。体制転換以降、文化活動が比較的自由に行えるようになったこともあり、日本大使館主催の日本文化紹介行事や日本語学科を設置している大学等の教育機関による「日本文化の日」と称する行事が、国内各地で開催されるようになった。そして、それらの行事でBKFおよびBKF加盟の地方クラブは、剣道のデモンストレーションを要請されることになる。さらに、日本文化に関連した行事だけでなく、空手や合気道等の武道団体が主催するイベントや大会においてもデモンストレーションは行われるようになり、徐々にではあるが、剣道は着実に人々に認知されるようになったのである。

剣道のデモンストレーションというと、日本ではあまり馴染みのないことではあるが、海外では貴重な宣伝の機会でもある。ブルガリアでは「剣道」と聞いても、全くと言っていいほどイメージ

することができないため、「剣道」という身体運動文化があることを知り、直に見学し、時には体験できるデモンストレーションは、大変効果的な宣伝なのである。ヨーロッパでは、日本文化への憧憬やその精神性への関心から剣道を始める人が多いとよく言われている[11]が、ブルガリアも同様で、これらのデモンストレーションから新たに剣道を始める人も多い。

また、1996年にはBKF内に居合道部も設置され、実際に行われるようになる。さらに、2006年には杖道も加えられ、BKFは、剣道・居合道・杖道を統括する団体となる。2010年現在、ブルガリアのクラブ数は、剣道7、居合道・杖道（併設）1の計8クラブであり、そこではおよそ130人が稽古を行っている。

2-3. 公式団体への加盟

地方クラブも設立され、徐々に活動の規模を拡大していったBKFは、2003年にスポーツ省（現：体育スポーツ省）からライセンスを取得。国内のスポーツ団体として正式に認可される。これにより、補助金を得ることができるようになり、全国規模の国内大会の開催費用や国際大会への遠征費用の一部が補えるようになった。これ以前は、国際大会は経済的に余裕のある一部の人に参加の機会は限定されていたが、補助金を得られるようになってからは、多くの若者にもチャンスが与えられるようになった。

国際的には、2001年にヨーロッパ剣道連盟への加盟が認められ、イタリアのボローニャで行われた第17回ヨーロッパ剣道選手権大会に初出場した。さらに、2006年には国際剣道連盟にも正式加盟し、台湾で行われた第13回世界剣道選手権大会に初出場を果たした。

３．ブルガリアにおける剣道普及の課題

2007年にEU加盟したブルガリアではあるが、「EU加盟国中最貧国」[12]とも呼ばれており、経済状況は未だ安定しているとは言い難い。体育スポーツ省からの補助金も①オリンピック種目でない、②競技人口が少ない、③国際大会での実績が少ない、という理由から現在のBKFでは、他のメジャースポーツよりも少ない額に止まっている。さらに、2008年以降はアメリカに端を発する世界的な不況の影響を受け、補助金は減額傾向にある。このような環境のなかで今後の剣道の普及には、どのような課題が存在するであろうか。それには、主に物的課題と人的課題の2つがあると考えられる。

まず物的課題であるが、ブルガリアで剣道が始められた当初は、剣道具の調達が最も急務な課題であった。防具はもちろんのこと、竹刀すらも容易に購入できなかったため、手作りの木刀で形稽古が頻繁に行われたという。その後、BKFの活動が活発になるにつれて、JICA、日本大使館、全日本剣道連盟等から防具の寄贈を受け、現在ではどの地域でも防具を用いた稽古が行えるようになっている。近年では、剣道具一式とまではいかないが、消耗の激しい竹刀や小手等については購入できる人も増えている。もちろん、現在でもジャージや他武道の稽古着、手作りの袴を用いて稽古をしている人は多数いるが、改善傾向にあることは間違いのないことである。

場所の確保も課題の一つである。ブルガリアでは、学校施設や公共の運動施設を借用して稽古をするのが一般的であるが、他のスポーツクラブと申請が重複した場合、認知度の低い剣道は使用できないことが多い。また、ヨーロッパでは馴染みの薄い気合や裸足での稽古という理由から、学校長の許可が得られないこともある。このことについては、周囲の理解が得られるよう地道に努力していくことが必要であろう。

次に人的課題である。これについては、競技人口の少なさもあるが、主たる課題はやはり指導者の確保である。2009年の青年海外協力隊派遣終了後、指導できる人材が育っていない新しいクラブでは、各人の技能向上においても、新規会員の獲得においても特に厳しい状況にあるといえる。

また、青年海外協力隊員の活動は、日本文化への憧憬や興味から剣道を始めるブルガリア人にとって、「日本人が伝える日本文化」という一つの動機付けになっていたことも否定できない。西欧諸国のように連盟の経済的基盤が十分に整っていれば、連盟が費用を負担して日本から指導者を招聘することもできるであろうが、それも現在のBKFの規模では極めて困難な状況である。

また、青年海外協力隊以外にもクラブのリーダーや指導者が、出稼ぎや留学のために国外へ移住し、これによりクラブが活動停止状態になるケースも多い。このような傾向は、EU加盟後、特に著しくなっており、今後も続くものと思われる。

以上、指導者の不足の課題に対しては、クラブ間で協力して指導方法を学習したり、稽古の方法を工夫することが必要であろう。また、これまでにも近隣諸国での高段者による講習会等に参加する人はいたが、今後はより積極的な参加が求められるであろう。

Ⅳ. ま　と　め

以上より、ブルガリアでは1990年代初頭のデモンストレーションが契機となって、剣道が行われるようになり、それは1993年の連盟設立以降、1994年から派遣が開始された青年海外協力隊を中心に、日本大使館等の支援によって発展してきたといえよう。また、その普及にあっては、日本文化関連の行事とも上手く連携して、多くの人に認知されるようにもなった。さらに、2001年からはヨーロッパ剣道選手権大会へも出場可能となり、それに対応するように若者たちの目標も広がりつつある。

一方、課題としては、剣道開始当初は剣道具の確保が主なものであったが、現在では指導者の確保が急務となっている。特に、2007年のEU加盟後は人材の流出が著しく、クラブあるいは連盟の中心的人物が国外に出てしまうケースも多く見られる。

現在のBKFの経済状況では、日本から指導者を招聘することは困難なため、今後は周辺諸国の講習会に参加して学ぶこと、あるいは学んだことを自国に持ち帰って他の修練者に伝達していくことが重要であろう。また、既に行われていることではあるものの、旅行や出張等でブルガリアを訪れる剣道有段者（日本人、外国人問わず）に指導を要請するクラブも存在する。この学ぶ姿勢自体は非常に重要なことではあるが、そこには多くの情報が錯綜するという新たな課題も予想される。さらに、日本文化である剣道が異文化のなかで伝達されていくことで、少なからず何らかの「文化変容」の出現がもたらされるであろう。

長尾はこの「文化変容」について、次のように述べている[13)]。

> 文化人類学の定義を持ち出すまでもなく、ひとつの文化が他の文化と長期にわたって接触すれば、そこに「文化変容」が起こることは当然の帰結であり、剣道や武道もその例外ではない。むしろ「文化は変容しうるものである」という認識にたち、互いを尊敬・尊重しながら最大公約数の部分を見出す努力が必要であろう。

相互の文化のなかで見出される最大公約数とは、すなわち剣道の「本質」であろう。従って、海外に広がる剣道のもつ本質を探究するためにも、今後はこの「文化変容」に着目した研究の蓄積が主たる課題となるであろう。

引用・参考文献

1）塩入　宏行：剣道の広まる過程－国際化の視点から－，体育の科学，40（2），105-108，1990.
2）全国教育系大学剣道連盟　編：教育剣道の科学（68-69），大修館書店，2004.
3）日本武道学会　剣道専門分科会　編：剣道を知る事典（168-169），東京堂出版，2010.
4）阿部　哲史：最終回　欧州剣士の剣道体感記　まとめにかえて『ヨーロッパ剣道の動向とその重要性』，剣道日本，6月号，78，2010.

5）外務省：ブルガリア共和国　5. 内政，2010年8月，http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bulgaria/data.html.
6）滝澤　航爾：特集　最終章を迎えた東欧への協力隊派遣　－ルーマニア＆ブルガリアレポート－，国際ボランティアの情報誌　クロスロード，1月号，16-17，2009.
7）ブルガリア剣道連盟：История на Кендо в България，http://kendo.bg/кендо-в-българи я/история-на-кендо-в-българ ия/.
8）滝澤　航爾：前掲書，16.
9）JICA －国際協力機構：JICA ボランティア，http://www.jica.go.jp/volunteer/aboutjica/message/.
10）豊島正夫：国際普及の一翼を担って　JICA派遣指導者の現況と今後，剣道日本，3月号，108-110，2007.
11）日本武道学会　剣道専門分科会　編：前掲書，172-173.
12）外務省国際協力局　編：政府開発援助（ODA）国別データブック2009，1105，2010.
13）長尾　進：剣道における国際化の問題を考える，現代スポーツ評論，21号，59-60，2009.